


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成28年 5月25日

山北町議会議長 府川 輝夫殿

受付番号	第2号	質問議員	12番	渡辺良孝 
件名	1. 歴史遺産河村城址を町おこしに 2. 個人住宅耐震化の環境の整備充実を			
要 旨				
<p>1. 歴史遺産河村城址を町おこしに</p> <p>河村城址にある高さ3.5mの城址碑の題字は、歴史家の徳富蘇峰（菅原正敬）が書いた書である。と地方情報誌に報じられた。石碑は昭和6年（1931年）川村青年団によって建立された。町史によると当時酒匂川の石を使い、建碑総費用は2,500円（現在の価値では600万円）とある。今まで何気なく見てきた城址の石碑から、当時は公的調査もされていない河村城址であり、そこへの石碑の建立に徳富蘇峰に書をお願いした地元青年団がかけた思いの深さに強く感銘を受ける。今、民間組織の河村城址保存会が河村城址に関わるイベントを開催し、河村氏の子孫の方々を招き、つながりを持ちつつある。これらのことは新たな「地方創生」の施策につながるのではないか。しかし、河村城址を活用し、町おこしにつなげていくためには、県指定の遺跡であることから、行政主導で文化財・公園・観光に係る課が関わり、民間団体との連携により事業を推進していくべきと思い町長の考えを伺う。</p> <p>（1）河村城址の中復にある案内看板は、幅1.5m高さ約8mの軽量鉄骨でしっかり作られ、山北の街や御殿場線からもよく見え河村城址のPRに役立っていた。しかし、数年前から周りが樹木に覆われ見えなくなっている。伐採は地権者のご理解を得ることになるが、周りの木の伐採と看板の塗り替えを実施すべきではないか。また、この看板のみならず、全般的に案内板が少なく町外からの来訪者から河村城址へ行く案内が分かりにくいとの声を聞く。平成21年に策定した「河村城跡史跡整備中期基本計画」では、歴史説明・案内板は、平成29年度から32年度の最終年度に計画</p>				

されている。地方創生に絡めた機運が高まってきている今、史跡の整備が全て終わらなくても、相当整備されてきている現状から、町の歴史遺産を地域・観光振興につなげていくべきと思う。それには、行政の関係する課が連携を取り街なかを点検し、早い内に河村城址に関わる分かりやすい歴史説明・案内板を整備すべきと思うが。

(2) 河村城跡の本城廓北東部にヤマユリが群生している。数年前から状況を観察しているが球根が少しずつ増えている。(推定300本)。河村城址保存会の役員でヤマユリに詳しい方に聞くところでは、急傾斜地で水はけが良く、雑菌が繁殖しにくく、ヤマユリの群生地としては最良の場所であるといわれる。

深く根の張る植物は遺構の保護の関係で問題もあると思うが、球根の根は浅く支障はないと思う。山北駅から徒歩約25分程の所で、見ることのできるヤマユリの群生地は、当町の貴重な財産と言える。河村城址保存会と関係を取るなどして、「ヤマユリの群生地」を守り立て、新たな観光スポットとして町おこしにつなげていくべきと思うが。

2.個人住宅耐震化の環境の整備充実を

平成7年の阪神淡路大震災以降、新潟県中越地震、東日本大震災そして熊本地震と日本列島で大地震が続いて起きた。報道されているように、今回の震度7の激しい揺れが2度続いた熊本地震のようなことは過去にはない。専門家は各自治体が策定する「地域防災計画」には、最大震度7の地震が連続することを想定した見直しの必要性を呼びかけている。

平成17年9月に「建物の耐震改修の促進に関する法律」が改正され、当町では平成22年3月に「山北町耐震改修促進計画」を策定した。そこで質問をする

(1) 過去3年間を見ても個人住宅の耐震診断は1件である。計画に沿った個人住宅の耐震化が一向に進んでいないのではないか。耐震診断の補助限度額(2万円)を見直すなどして、町民への啓発に積極的に取り組むべきではないか。

(2) 個人の住宅は、耐震診断を実施しても技術的な指導など、どのような工法で改修に取り組むかが不安になる。そのためには、町が地元の設計・施行業者を選定・紹介し、補助制度を設けるなど個人住宅耐震化を促進するための環境の整備充実が必要ではないか。